



## 特色ある教育活動 ～日本の伝統文化に触れて～

感じる・味わう・深める「和の心」をテーマに特色ある教育活動の一つとして6年生が能楽体験を行っています。

AIの発達など、様々な社会的変化が予想される激動の世の中に向かう中で、文化とはどのような存在なのでしょう。

激動とは真逆の「間」という静けさを重んじ、「学力」だけでなく「生活」にも直接結び付かない能楽の体験が、なぜ必要なのでしょう。

激動の世の中で生きぬくためには、受け身ではなく、自分の事として主体的に取り組める子どもたちを育成する必要があります。つまり、さまざまな試練に出合った時に、背景を踏まえて自分はどうかあるべきか、自ら考えて答えを出すことが求められます。

そのためには、一人ひとりの内面に自分の基盤となる根っこのようなものが必要であり、その部分をしっかりと大きく育てなければなりません。

日本の文化に触れることで子どもたちが和の心を学び、日本人としての自覚や誇りをもつことが重要だと考えています。

和の心を学んで獲得した日本人としての自覚や誇りが、その根っこのようなものに加わるならば、それは、さらに豊かで揺るぎないものになるでしょう。

先日、本校の元保護者でもある能楽師の高橋忍先生をはじめ、5名の能楽師を講師としてお招きしました。

副校長 瀬川 雅之

謡(うたい)では、高砂を体験しました。能楽師の方の声の響きと独特の節回しが体に染み入りました。

子どもたちは、体験や鑑賞を通して能楽を知り、和の心を感じ取り、味わい、深めます。それによって日本人としての自覚や誇りを目覚めさせ、真の国際人となってゆくための基礎を身に付けます。能楽体験で身に付けた和の心は、グローバル社会で多様な人々と協働する際のツールとして豊かな人間関係を促し、自分を見つめる際はその拠り所となり、その人のより豊かな人間形成に寄与します。

本校では、今年度から各学年で日本文化に触れる活動を計画しています。華道・茶道・落語・百人一首(五色百人一首)・地域のお年寄りとかし遊びを体験することで、日本の伝統・文化の良さを実感し、それを積極的に発信する活動を通して表現する力も高められるようにしていきたいと考えています。

